

ニューカッスル大学語学研修 参加報告書

外国語学部英米学科 2 年(参加時)

私は、2月11日から3月15日までの約5週間（日本出発は2月10日、日本到着は3月17日）、オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるニューカッスル大学の語学研修プログラムに参加しました。今回の参加報告書では、主に「授業・学校生活」「放課後・休日」の2点に分けて、オーストラリアでの経験を紹介したいと思います。

1. 授業・学校生活

ニューカッスル大学の語学研修プログラムは、渡航前に受験したレベル分けテスト（4択の文法問題と英作文が2つの計60分間のテストでした）の結果に基づいて「Elementary」と「Upper Intermediate」の2つのクラスに分けられました。私たちが参加した際は、Elementary が2クラス、Upper Intermediate が4クラスに分けられており、私は Upper Intermediate の104クラスに配属されました。私の104クラスでは、中国からの留学生・サウジアラビアからの留学生・モンゴルからの留学生と日本人留学生で構成されており、かなり多国籍クラスだったと感じます。

授業は週ごとにテーマが決められており、歴史・環境・交通・動物などのテーマに基づいて英語4技能を磨くといった内容でした。そのため毎週英作文が2回あったり、毎時間必ずグループディスカッションがあったりと英語をアウトプットする機会がかなり多く、慣れるまでは授業を受けるだけでもかなり体力を消費していました。しかしその分英作文のフィードバックが毎回きちんとあり、英作文の構成の基本や正しい文章のつなげ方など丁寧に指導や添削をしていただき、書くごとに自身の英作文が簡潔にかつ一貫性を持ったものに仕上げる事が出来るようになるのを実感していました。英作文以外にももちろん、毎回のグループディスカッションを通じて自身のスピーキング力を向上させる機会や、国籍の異なる学生との交流を通して、自国の文化で得た考えとは異なる新たな視点を知ることが出来たことなど、英語力と同時に様々な知識や価値観を学ぶことが出来ました。

また、多国籍クラスであったことの利点に、リスニング力の向上や自身の英語に対する姿勢が変化したことが挙げられます。まずオーストラリア自体かなり訛りの強い英語を話す国であり、Aussie 英語という言葉が存在するほど発音やアクセントが今まで触れてきた英語とは異なります。そのため、オーストラリアの方と会話をするだけでもリスニング力の向上に繋がるのですが、中国やサウジアラビアの方の話される英語などにも触れる機会があったので、癖のある英語にも慣れてきてリスニング力の向上に繋がりました。このことに加え、中国の方やサウジアラビアの方の英語に対する姿勢にも刺激を受けました。私含め多くの日本人学生は、完璧な英語でないと伝わらない、文法に間違いがあると恥ずかしいと感じてしまう部分があり、あまり自信を持って英語を話せなかったのですが、中国人学生やサウジアラビア学生は間違いを恐れて英語を使わないのではなく、むしろ使っていく中で間違

っている部分を学ぶという私たち日本人とは異なる姿勢で臨んでおり、とにかく間違っても英語で発話しアウトプットを繰り返していました。彼らのそんな姿から、文法が間違っても伝わるのだということや、間違いは恥ずかしいことではないのだと学びました。間違いを恐れて何も発話しないより、彼らのようにアウトプットをする方が成長に繋がることを学び、良い刺激を受けました。

2. 放課後・休日

私は学校までバスで 1 時間ほどの場所にあるフレッチャーという街に住むターニャさんのお宅にホームステイをしました。私のホームステイ先は、一緒に語学研修に参加した北九大生の中でも最も離れていたもので朝はかなり早い生活で、放課後も最終のバスが少し早めだったので、常に時間を意識した生活でしたが、放課後や休日を通じて多くの経験をする事が出来ました。放課後はホストファミリーと過ごしたり、北九大の友人と買い物に行ったり、オーストラリアで出来た友人と遊びに行ったりと充実した日々を送りました。休日には北九大のみんなでシドニーへ電車で行き、ブルーマウンテンやタロンガ動物園、オペラハウスやルナパークなど様々な施設に行き、ホテルを予約して一泊するなどオーストラリアを堪能しました。

私はオーストラリアで多くの経験をする事が出来ましたが、その中でもオーストラリアでできた友人であるヘイデン君との出会いが一番印象に残っています。ヘイデン君とは、ホストマザーがサッカーの試合を見にサッカー場へ連れて行ってくれたときに会いました。私はサッカーの試合を見に行くことをホストマザーに提案された際、サッカーのルールを知らなかったので純粋にサッカーを楽しめないと思い、初めは断ろうと考えていました。しかしせっかく提案してくれているということと、ホストファミリーとの時間を大切にしたいという想いもあり行くことにしました。

私がサッカー場に着き、ホストマザーとサッカーの試合を見ている最中に、たまたま隣に座っていたのがヘイデン君でした。ヘイデン君は日本とオーストラリアのハーフで、日本語が堪能だったこともあり、私が試合中に「惜しい！」と言ったことがきっかけで私に話しかけてくれました。そこから会話が弾み、私たちも驚くほどに気が合い意気投合をしました。そして出会った日の週末に一緒にコタラという街の Westfield というショッピングセンターに遊びに行くことになりました。ヘイデン君とは遊んでいる最中は英語と日本語を交えて話し、お互いの文化の違いやお互いの言語のスラングを教え合い、遊びだけでなく勉強面でも支え合いました。ヘイデン君と過ごす時間は本当に楽しいもので、一緒に色々な場所に行けてたくさんの思い出が作れました。

私がこのレポートを書くに当たって最後に皆さんにお伝えしたいことは、「何事にも前向きに挑戦してみることの大切さ」です。今回の私のヘイデン君との出会いも、あのまま不安に感じてサッカーの試合に行く提案を断っていたら無かったですし、私自身今回のブログ

ラムに参加することも締め切り限界まで悩んでいたため、あのまま悩んで参加していなかったらこうして多くの出会いや経験を得ることも無かったことになります。私は今この語学研修プログラムに参加して後悔は無いですし、あのとき勇気を出して良かったなと前向きな感情のみが残っています。留学や語学研修プログラムのみならず、少しでも挑戦してみたいと思うものがあれば、勇気を出して一度挑んでみるべきだと思います。皆さんにもそうして頂きたいですし、私自身もこれからもそうしていきます。今回の語学研修プログラムは私にとってかけがえのない経験です。

